薬草園をめぐる　⑦

白　瀧　義　明
（城西大学薬学部）

ステゴビル *Caloscordum inutile*（Makino）Okuyama & Kitag.（ユリ科 Liliaceae）

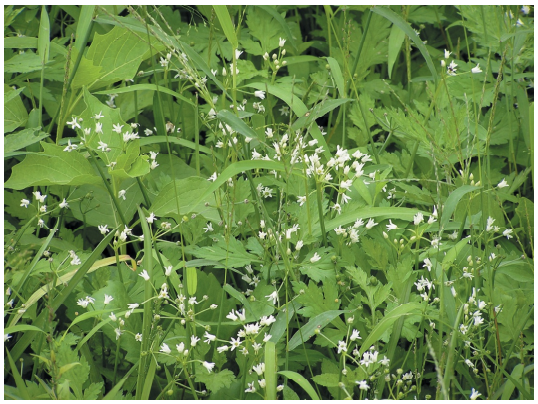
本学の所在地である埼玉県坂戸市の「坂戸文化かるた」に“ステゴビル　やしろの杜に　白い花”と詠われているのがステゴビルです。本植物は埼玉県の天然記念物に指定されているほど，個体数が激減し，今では絶滅危惧Ⅱ類に分類され，非常に貴重な植物になっています。

ステゴビルはニラやノビルに似ていますが，これらに特有のにおいはなく，食用としての利用価値がなかったようです。ニンニクやネギなどを総称して「蒜（ヒル）」といいますが，本植物は小さくて食用にならないので捨てて利用しない蒜という意味で「捨子蒜」の名がついたそうです。ユリ科の中でも本植物の属する *Caloscordum*（ハナビニラ）属は日本に自生するステゴビルと中国のハナビニラがあるだけの小さな属です。本植物は本州中部各地に遺存的に分布し，9月になると約20 cmの花茎が伸び，先端に5～6個の白色または淡紫色の花をつけます。花被片は長さ約1 cmの線状披針形で，花被片の下部が合着しているので，まるで合弁花のように見えます。花が終わっても結実するまで花茎は伸び続け，その後，結実した果実は垂れて上部から枯れ始め，11月中旬には新しい葉が伸び出します。この葉は本州西南部では越冬し，本州北部では12月に枯れ，翌年3月初旬に再び芽を出し，長さ約30 cmの線形葉に成長するのですが，6月頃枯れ始め，夏には枯れて花の咲く秋に葉はありません。1個体の葉の数は1～6枚あり，3枚以上の個体にのみ，花が咲きます。

埼玉県では坂戸市入西（白花）と秩父（淡紫色花）の2カ所の確認報告があり，坂戸市入西（ニッサイ）のものはそのむかし，入西小学校の校長であった長島伝十郎先生が発見されたそうです。自然開発の影響をもろに受け，入西では新堀

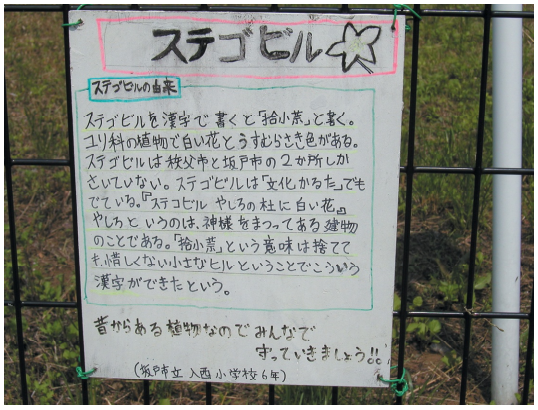
ステゴビル（白花）

金山神社



ステゴビル（白花）

ステゴビル（白花）



ステゴビル
（ステゴビルの由来，入西小学校６年）

ステゴビル（淡紫色花）

の金山神社境内に 100 m^2 ほどのネットフェンスで囲まれた場所にしか残っていません。まさに絶滅の危機に瀕している植物なのです。本学薬用植物園では，この貴重な植物を後世に残そうと栽培実験に取り組んでいます。